

報告

第 44 回 技術士全国大会(山口)報告

長井 智典

1. はじめに

第 44 回技術士全国大会は、2017 年 10 月 20 日(金)～23 日(月)の 4 日間の日程で中国本部が担当し、山口県山口市で開催されました。全国からの参加者数は 600 余名、北海道からは、42 名が参加しました。参加者が宿泊地とする山口市湯田温泉は昔々、白狐が傷ついた足をつけていた池から湯が湧き出たことに由来し「白狐の湯」として栄えているそうです。



写真-1 高さ 8 メートルの白狐の「ゆう太」君

2. 大会の概要

(1)大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、「維新百五十年～新しい時代を創る技術士の役割～」でした。これは、2018 年が「維新 150 年」の年であり、山口在住及び全国の技術士が当時の改革の志を今後の活動に活かすべきとの思いから掲げられたものです。

大会宣言は、中国本部の北浦直子技術士(建設部門)により宣言されました。内容は次のとおりです。

私たち技術士は、『維新百五十年～新しい時代を創る技術士の役割』の大会テーマのもと、「明治日本の産業革命」の一翼を担った山口の地に集いました。

明治政府は、当時の世界に類例のない実務的な工学教育機関を創設して技術者を育て、急速な工業の近代化を実現し、「技術立国 日本」の基礎をつくり

ました。

その偉業を受け継ぎ、人々に豊かさをもたらす未来の姿「超スマート社会」の実現に向けて、多様な専門性を持つ技術士が挑戦し貢献することを宣言します。

1. 技術の高度化と統合化

高い専門性と倫理観を維持するための継続研鑽に努めるとともに、21 部門にわたる多様な技術分野の技術士が結集することで、社会のニーズに応えます。

2. 科学技術イノベーションへの取り組み

産官学と緊密に連携して科学技術イノベーションに取り組むとともに、それを担う多様な人材の育成を支援します。

3. 技術士の社会貢献

地域・社会に根ざし、防災・減災や地方創生など公益に関わる技術貢献に取り組みます。



写真-2 大会宣言

(2)会場

大会メイン会場は、山口県健康づくりセンターであり、専門会議はその他に山口県教育会館、山口県政資料館旧県会議事堂で開催されました。そのうち、建設部会交流会が開催された山口県政資料館旧県会議事堂は、大正 5 年に完成し、西洋の近代的な

建築様式と和様式が融合した大正建築の粋を集めた貴重な建築物です。昭和 59 年に国の重要文化財に指定されています。



写真-3 建設部会交流会会場(旧県会議事堂)



写真-4 大会式典風景

(3) スケジュール

【10月20日(金)】

- ・第13回全国防災連絡会議
- ・技術者倫理情報交換会
- ・各部会会議、見学会
- ・ウェルカムパーティー
- ・親睦ゴルフ会
- ・展示コーナー

【10月21日(土)】

- ・第1～第4分科会
- ・大会式典
- ・記念講演
- ・交流パーティー
- ・パートナーズツアー
- ・展示コーナー

【10月22日(日)】

- ・テクニカルツアー A、B(日帰り・1泊2日)

【10月23日(月)】

- ・テクニカルツアー B(1泊2日)

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、山口県健康づくりセンター 2 階の多目的ホールにて開催されました。大会運営委員長の大田一夫中国本部長が歓迎の挨拶をされ、続いて、高木会長の式辞、文部科学大臣・山口県知事・山口市長・農水省中国四国農政局長・国交省中国地方整備局長からの祝辞、来賓紹介、大会宣言、記念講演と続きました。

(2) 分科会

式典前、午前と午後に分かれ 2 会場にて分科会が開催されました。以下に各分科会の内容を示しますが、タイトルに※の講演は日本技術士会ホームページの Pe-CPD《CPD 講演内容の HP 視聴》にて視聴が可能です。(要日本技術士会会員 ID、PW)

■第1分科会(新技術)「地方創生と新技術」

多目的ホール(9:30～12:00)

□基調講演

※「発光ダイオードの基礎と今後の展望」

山口大学大学院創成科学研究科教授 只友一行氏

□発表

※「バイオマス利活用による地方創生と新技術」

NPO 兵庫県技術士会 濱崎彰弘氏

・「新しい日本創成と技術者の役割」

鹿島建設(株)東北支店 加納実氏

・「日立製作所におけるアルミ製鉄道車両の生産技術の取り組みについて」

(株)日立製作所鉄道ビジネスユニット 江角昌邦氏

※「電力メーターを活用した省エネルギー支援活動の取り組み」

中電技術コンサルタント(株) 岡村幸壽氏

■第2分科会(防災)「防災分野の ICT 活用推進における技術士の役割」

多目的ホール(13:00～15:30)

□事例発表

・「防災科学技術研究所の災害対応時における GIS の活用事例報告～H26 年広島土砂災害、H28 年熊本地震と台風 10 号岩手県土砂災害など～」

防災科学技術研究所 研究員 水井良暢氏

□基調講演

※「衛星リモートセンシング技術の防災分野への活用」

山口大学 副学長・特命教授 三浦房紀氏

□発表

※「震災被害最大都市、石巻市の復興事業と CIM 活用」

石巻市 建設技術管理監 大元守氏

※「合成開口レーダ(SAR)を活用した地形モニタリング」

中電技術コンサルタント(株) 岩田直樹氏

山口大学大学院理工学研究科 教授 清水則一氏

■第3分科会(技術者倫理)「次世代技術者の育成と技術者倫理」

第1研修室(9:30~12:00)

□基調講演

※「倫理とは何かという問いへの返答」

山口東京理科大学共通教育センター 教授 村田貴信氏

□発表

※「次世代技術者の育成と技術者倫理」

サステナ1000 技術士事務所 代表 佐々木寿朗氏

※「倫理教育から倫理実践力教育へ～JABEEを越えて～」

ラーテン技術士事務所 比屋根均氏

※「埼玉県ダイオキシン対策の技術者倫理の纏め」

デンカ(株) 知的財産部 西岡朝明氏

※「水産大学校における技術者倫理教育」

水産大学校 海洋機械工学科 教授 石田武志氏

■第4分科会(青年技術士)「科学技術の発展の在り方とは」

第1研修室(12:30~15:30)

□発表(ディベート企画に対する話題提供)

・「AIの現在・過去・未来」

三菱重工業(株) 民間機セグメント 山崎幸治氏

・「科学技術・制度・文化の是非」

(株)中筋組 企画情報室 長島哲郎氏

■ディスカッション(ディベート企画)

(3) 記念講演

記念講演は、アルピニストの野口健氏が「富士山から日本を変える」と題して講演されました。冒頭約15分間の活動紹介DVDを鑑賞後に登壇され、最近自分が何をやっているのかわからないと笑いを誘い講演が始まりました。講演ではエベレストや富士山の清掃活動を行うようになったきっかけやゴミ処理費用を工面する苦勞などについて、冗談を交えつつお話され、自分にとって山が現場であり、ネットなどでデータや資料は集まるが、得た知識が平ら。現場は臭いや気(オーラ)により生々しく、これによって知識が膨らんで一体化すると述べられました。何となく理解できる気がしました。

また、清掃活動を始めた当初は、自分が正しい＝日本人の多くが正しいと思ってくれる、社会の正義と思って活動されたが、様々な経験を経て、今では人は色々な考えを抱き、それぞれの正義があり、立場によって捉え方が異なると思うようになったとお話されました。ちなみに、野口氏は登山家として富士山が好きなのではなく、富士山は日本のシンボルであり、富士山での活動が日本中で広がれば日本が変わるかもしれないとの思いから活動を続けているそうです。まとめとして、環境問題の相手は人間社会であり、環境の環(わ)は、人と人の環(わ)。全て

を人に評価されたいと思うと活動ができず、正義感のみでは周りが見えない。バランスが難しくじっくりと活動を広げたいと結ばれました。

なお、講演の様子は許可された方以外、撮影不可でしたので本誌ではご紹介できません。ご容赦願います。

(4) 交流パーティー

交流パーティーは、湯田温泉のホテルかめ福に移動し、テーブル着席形式で300名を超える参加者を迎え開催されました。先ず、アトラクションとして鷺流^{さぎりゅうきょうげん}狂言が父:米本文明氏[山口県無形文化財]、子:米本太郎氏により披露されました。江戸時代の狂言には、大蔵・鷺・和泉の3流がありましたが江戸幕府の崩壊によりその後ろ盾を失い、鷺流は中央で廃絶し、奇跡的に民間伝承という形で山口と新潟県佐渡に残されているそうです。演目は「鬼瓦」で、領地を離れ都に滞在中の大名が、屋根の上の鬼瓦を見て残してきた妻の顔を思い出し、従者の太郎冠者とあれこれ回想するお話でした。鬼瓦を見た大名が「あの顔は私を怒る妻の顔にそっくり」と語るなど、会場は笑いに包まれていました。



写真-5 鷺流狂言(鬼瓦)

その後、高木会長の開会挨拶を皮切りに、岡山口大学学長、山田参議院議員、大谷山口県商工労働部長、川崎国土交通省中国地方整備局長の来賓挨拶、塩崎文部科学省人材政策課長の乾杯により開宴となりました。

開宴後、各地の技術士が交流を深める中、二つ目のアトラクション(技術士がリーダーを務めるスターダスト・ビッグバンドによるジャズバンド演奏)が披露され、皆さん楽しい時間を過ごされたようで

す。宴も終わりに近づき、東北本部の皆さんが壇上にあがり、次回の全国大会開催地(福島)の紹介を行い、中川副会長の挨拶にてパーティーは盛会のままお開きとなりました。



写真-6 交流パーティー大会場の様子



写真-7 次回福島大会をPRする東北本部の皆さん

4. オプション行事

(1) ウェルカムパーティー

式典前日の10月20日(金)、山口市菜香亭にてウェルカムパーティーが開催されました。菜香亭は明治10年頃の創業から平成8年までの間、広く親しまれてきた料亭(祇園菜香亭)を移築復元したもので、井上馨や佐藤栄作など著名人の扁額28枚とゆかりの所蔵品が展示されています。300名余の参加者があり、1階の100畳の間では収まりきらず、2階及び庭のテントに席を設けて対応されていました。残念ながら申込時点で断られた方も多数居られたようです。



写真-8 ウェルカムパーティー会場(菜香亭)

趣ある建物の中、パーティーではバンド演奏と山口県技術士が率いるダンサーズの踊りが披露され、大丈夫?と思わせる熱気でありました。



写真-9 バンド演奏



写真-10 ダンサーズの踊り

(2) テクニカルツアー A

日帰りのテクニカルツアー A は、「ジオパーク、長府城下町を巡る」と題して、秋吉台、秋芳洞、角島大橋、功山寺をめぐるツアー(参加者40名)でした。「当麻の鍾乳洞とはスケールの違う秋芳洞は期待通り見応えがありました。大型で強い台風21号の影響もあって角島大橋を渡った時にはバスのバックミラーがずれてしまうほどの強風でした。地元のガイドさんがこんなに波の高い光景は生まれて初めてと言っておりましたので、ひと味違う貴重な体験を得ることができました(森本部長談)。」

(3) テクニカルツアー B

1泊2日のテクニカルツアー B は、「世界遺産の萩、宇部興産を巡る」として明倫学舎、萩焼き絵付け体験、松下村塾、興産大橋など見学されました(参加者27名)。

5. おわりに

全国の技術士が一堂に会する全国大会は貴重な交流の場となっており、同伴者も一緒に参加される方が多数おられます。次回の全国大会は、2018年11月11日(日)～14日(水)に福島県郡山市で開催されます。福島復興の今を知る貴重な機会でもありますので、今回参加されなかった方も是非一度、大会へご参加いただき、技術士の交流を深めていただければと思います。

長井智典(ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

